

横浜ベイアスコン株式会社

エコアクション 21 環境経営レポート

対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日



YOKOHAMA BAY ASCON

横浜ベイアスコン株式会社

2023年6月30日 発行

目次

文書	ページ
1 取組の対象組織・活動	1
2 実施体制及び役割及び責任・権限	2
3 工場フローネット	3-7
4 環境経営方針	8
5 環境経営目標	9
6 環境経営計画・実施状況評価 (次年度環境経営計画)	10-11
7 環境関連法規等などの取りまとめ表	12
9 代表者による全体の評価と見直し・指示	13

1、取組の対象組織・活動

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
横浜ベイアスコン 株式会社
代表取締役 佐々木 理夫
- (2) 所在地
本社(横浜ベイアスコン) 神奈川県横浜市磯子区新磯子町27-1
- (3) 法人設立年月
平成28年12月
- (4) 資本金 1,000万円
- (5) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 業務課 藤田 雄一 TEL:045-753-0728
FAX:045-751-0861
- (6) 事業内容
・アスファルト合材の製造
・リサイクル製品販売
・産業廃棄物中間処理業
- (7) 事業の規模(2022年度実績)
売上高 289,095万円
アスファルト合材製造数量 14万t
産業廃棄物受入 38万t

	本社
従業員	27名
延べ床面積	733.61m ²

- (8) 事業年度 4月～3月

□認証・登録の対象組織・活動

- 登録事業者名: 横浜ベイアスコン 株式会社
対象事業所: 本社
活動: アスファルト合材の製造
リサイクル製品販売
産業廃棄物中間処理業

□産業廃棄物許可内容

許可対象:横浜市
事業の範囲:中間処理 破碎 がれき類 以上1種類(特別管理産業廃棄物除く)
所在地:神奈川県横浜市磯子区新磯子町27番10、27番1の一部
許可番号:第05620192173号
新規許可:平成28年12月1日 更新許可:令和3年12月1日
有効期限:令和10年11月30日
処理施設の概要
破碎1施設(1基)624t／日 破碎2施設(1基)1,168t／日
許可保管量:28,975.25m³ 高さ8.5m未満

□産業廃棄物処理実績

2022年度

中間処理

	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量
中間処理	がれき類	破碎	t	381,496.00
			t	
			t	
			t	
			t	
再資源化等 うち	がれき類	選別後路盤材・再生骨材化	t	376,901.47
	鉄くず		t	4,531.00
			t	
			t	
		小計	t	381,432.47
合計			t	381,496.00

中間処理後の産業廃棄物(最終処分・中間処理・再資源化等)

	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処分量等
中間処理後の 産業廃棄物	混合廃材		t	63.53
			t	
			t	
			t	
		小計	t	63.53
	廃棄物の種類	処理方法等	単位	処理量等
(再資源化等) 中間処理等			t	
			t	
			t	
			t	
		小計	t	
合計			t	63.53

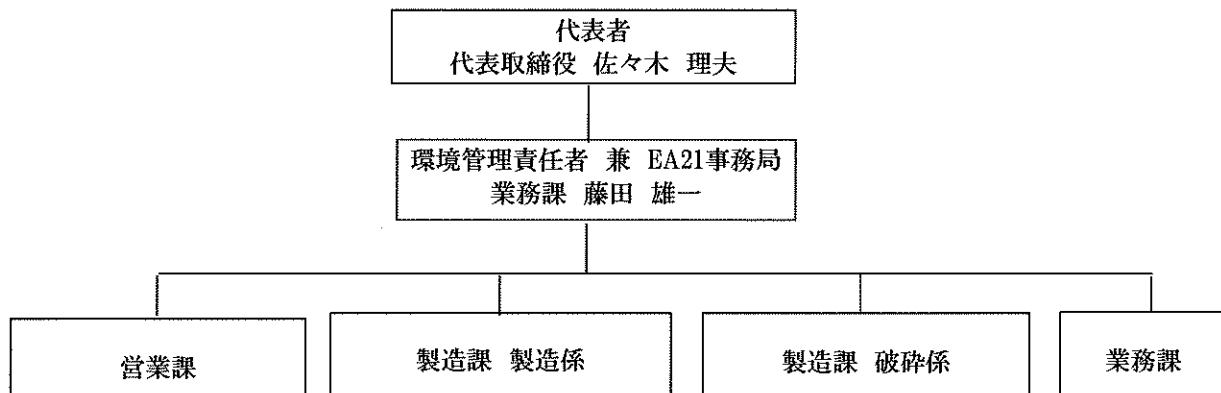
□処理工程図

7ページの破碎プラント4Pに示す。

2. 実施体制及び役割及び責任・権限

作成 2022年6月30日

承認		作成
佐々木		藤田



	役割・責任・権限
代表者	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. エコアクション21を運用し、維持するための経営資源を用意する 4. 環境経営システムの定期的見直しの実施 5. 社内情報の外部公開可否決定 6. 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 推進機関であるEA21EMSの事務局の責任者として事務局運営 4. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施する 5. 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 6. 環境関連文書及び記録の作成・整理
EA21事務局	1. 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 3. 環境目標、環境活動計画書原案の作成 4. 環境活動の実績集計、環境関連法規等取りまとめ表の作成 5. 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 6. 環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成
部門責任者	1. 自部門における環境経営システムの実施、環境方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施、自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 2. 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 3. 特定された項目の手順書作成及び運用管理 4. 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成 5. 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
従業員	1. 環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する。

(回覧ルート)

社長→全部門責任者、環境管理の責任者

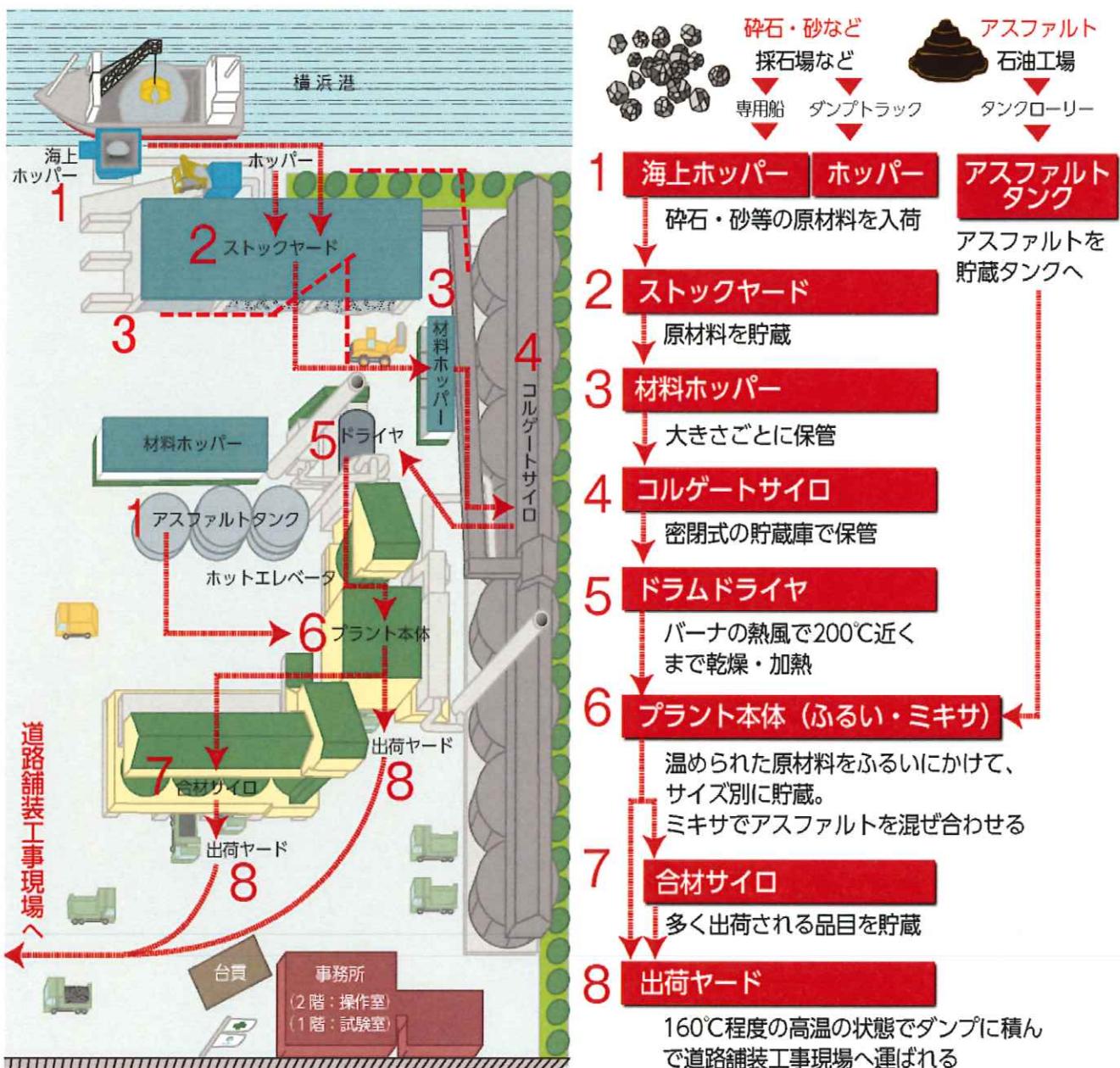
改訂履歴

改訂数	改訂理由	改訂月日	承認	作成者
1	初版	1月21日	櫻井	櫻井
2	代表者交代	6月30日	佐々木	藤田

3、工場フロー図

アスファルトプラント1P

アスファルトプラントの骨材納入からアスファルト合材出荷までの流れです。
アスファルトプラントの特長としては横浜港に面した立地条件を最大限に活用するため
メインとなる原材料は海上ホッパーを利用、海上輸送による効率的な搬入を展開しています。





1、アスファルトタンク



2、ストックヤード



3、材料ホッパー(新材)



3、材料ホッパー(再生骨材)



4、コルゲートサイロ



5、ドライヤー



5、バーナー



6、プラント本体



7、合材サイロ



8、出荷

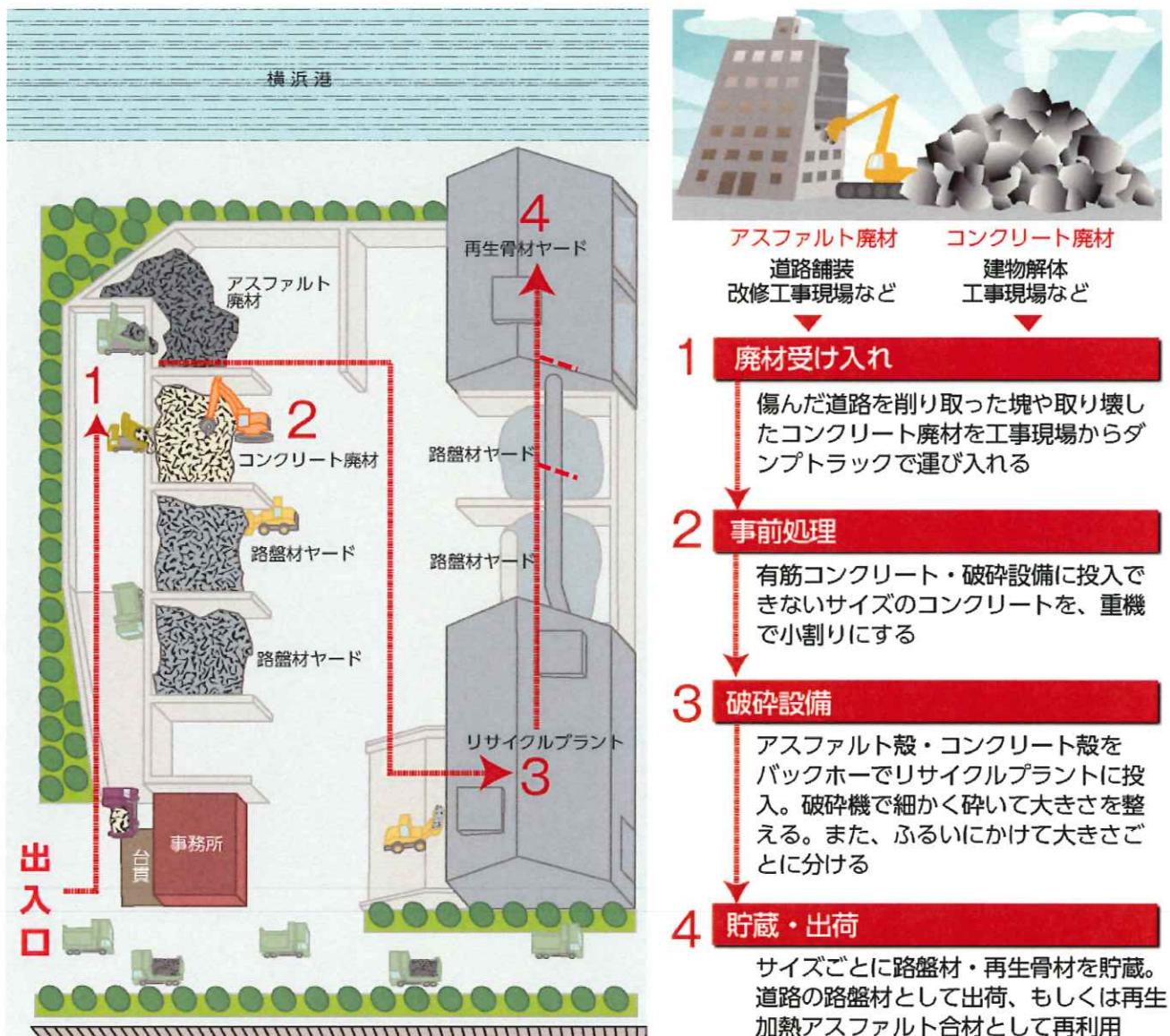


破碎プラント4P

破碎プラントの原材料から製品となるまでの流れです。

完全循環型のリサイクルシステムを確立し、アスファルト塊は再生アスファルト合材に混入する再生骨材と再生路盤材へ、コンクリート塊は再生路盤材へ100%リサイクルしています。

また、製造した再生骨材、再生路盤材を護岸に併設したシーターを使用して船舶による他エリアへの出荷も可能となっています。



1、廃材受け入れ



廃材種類別に廃材を降ろします

2、事前処理



適切なサイズに子割りします
コンクリート廃材は大きな鉄筋を取り除きます

3、破碎設備



ショベルにて破碎設備の原料ホッパーに
投入します

3、破碎設備



破碎設備の内部です

4、貯蔵・出荷



再生骨材や再生路盤材となり、各種保管します

4. 環境経営方針

基本理念

横浜ベイアスコン株式会社は従業員全員が環境保護活動の知識向上に努め環境保護と経済活動の両立に取り組みます。

日常の設備点検・更新の改善、環境法令の遵守を継続的に取り組むとともに産業廃棄物処分業を通してリサイクル率を意識し、循環型社会の構築に努め環境に優しい社会の実現に貢献します。

行動指針

1. 電力使用量の削減、プラント燃料使用量の削減により二酸化炭素排出量を低減します。
2. 廃棄物の分別、リサイクルを積極的に実施し、廃棄物の削減に取組みます。
3. 環境に関する法規等を遵守します。
4. 環境経営の活動は、継続的改善を実施します。
5. 技術提案を行い、提供する製品やサービスで顧客の環境配慮に協力します。
6. 当社周辺の清掃に取組み、地域社会に貢献します。
7. 全社員に環境教育を行い、環境保全の意識を向上させます。

制定日：2020年12月
改定日：2022年6月3

横浜ベイアスコン 株式会社
代表取締役 佐々木 理夫

5、環 境 経 営 目 標

環境経営目標	基準(実績)	中期目標		
	2019年度	2021年度	2022年度	2023年度
	2019年4月 ～2020年3月	2021年4月 ～2022年3月	2022年4月 ～2023年3月	2023年4月 ～2024年3月
	-	1.5	1.5	1.5
1.二酸化炭素排出量の削減比率 % (排出量) kg-CO ₂	6,357,122	6,261,765	6,261,765	6,261,765
2.電力使用量の削減比率 % (使用量) kWh	2,345,253	2,310,074	2,310,074	2,310,074
(CO ₂ 排出量) kg-CO ₂	1,095,233	1,078,805	1,078,805	1,078,805
3.ガソリン使用量削減比率 % (使用量) L	7,409	7,297	7,297	7,297
(CO ₂ 排出量) kg-CO ₂	17,188	16,930	16,930	16,930
4.軽油使用量削減比率 % (使用量) L	175,319	172,689	172,689	172,689
(CO ₂ 排出量) kg-CO ₂	452,323	445,538	445,538	445,538
5.灯油使用量削減比率 % (使用量) L	1,924,300	1,895,436	1,895,436	1,895,436
(CO ₂ 排出量) kg-CO ₂	4,791,507	4,719,634	4,719,634	4,719,634
6.LPGガス使用量削減比率 % (使用量) kg	290.2	286	286	286
(CO ₂ 排出量) kg-CO ₂	870.6	858	858	858
7.一般廃棄物排出量の削減比率 % (排出量) kg	720	684.0	684.0	684.0
8.産業廃棄物排出量の削減比率 % (がれき類受入に対する割合) 0.1%以下	0.018	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下
9.上水使用量の削減比率 % (使用量) m ³	5,567	5,483	5,483	5,483
10.製品の品質確保(不良品率削減 %) (アスファルト合材) (不良品率削減) t	1730.0	1643.5	1643.5	1643.5

注:

- 1) 購入電力の二酸化炭素排出係数: 国が公表する電気事業者ごとの調整後排出係数を使う。 2019年度0.467kg-CO₂/KWhを使用する。
- 2) PRTR対象物質は取り扱っていません。
- 3) 2019年度実績に対して削減率を設定しています。

6. 環境経営計画、実施状況評価及び次年度の計画、取組内容

環境経営計画	取組結果とその評価(2022年4月～2023年3月)			
	環境目標 (排出量)	実績 (排出量)	達成 区分	評価及び次年度の取組内容
1. 二酸化炭素排出量削減 (基準 6,357,122kg-co2) (1.5%削減)	6,261,765 kg-co ₂ 以下	5,571,799 kg-co ₂	○	・全体を通して今後も引き続き取組む。
① 電力使用量削減 (基準 2,345,253kWh) (1.5%削減) ・プラント空運転時間の削減 ・プラント設備インバーター化 ・照明のLEDへの移行 ・コンプレッサーの効率アップ ・事務所内消灯の徹底 ・エアコンの適正温度	2,310,074 kWh 以下	2,026,510 kWh	○	・アスファルト合材製造数量減少による影響が大きく、目標は達成。 ・エアコンの温度管理、消灯の徹底など今後も継続して対策していく。
② ガソリン使用量削減 (基準 7,409L) (1.5%削減) ・連絡車運転の効率化	7,297 L以下	5,487 L	○	・コロナの影響もあり目標は達成。 ・行動予定を組み、業務の効率化を図る。 ・車両の点検整備の徹底。
③ 軽油使用量削減 (基準 175,319L) (1.5%削減) ・重機運転の効率化	172,689 L以下	159,268 L	○	・路盤材製品横持増加等あるも目標達成。 ・今後も、予定把握による横持頻度の減少を図り、ムダな重機作業を削減していく。
④ 灯油使用量削減 (基準 1,924,300L) (1.5%削減) ・骨材乾燥炉設備の維持管理 ・骨材含水比の維持管理 ・排気温度の維持管理	1,895,436 L以下	1,686,963 L	○	・アスファルト合材製造数量減少による影響が大きく、目標は達成 ・今後も過加熱の防止に努める
⑤ LPGガス使用量削減 (基準 290Kg) (1.5%削減) ・事務所内省エネ活動	286 Kg 以下	200 Kg	○	・シャワー使用頻度が減少したことから目標達成。今後も継続して取り組む。

2. 一般廃棄物排出量削減 (基準 720Kg) (5.0%削減) ・印刷物の再資源化 ・資源ごみの分別	684 Kg以下	884 Kg	×	・一般廃棄物のうち約3割はシュレッダーごみなどの再資源可能紙ごみであり、可燃ごみではない。 ・今後さらに、紙ごみの分別回収を図り可燃ごみの減少に取り組む。
3. 産業廃棄物排出量削減 がれき類受入量に対する割合(%)	0.1%以下	0.02%	○	・排出現場への事前説明に引き続き取り組む。
4. 上水使用量削減 (基準 5,567m ³) (1.5%削減) ・設備の水漏れ点検 ・節水表示板の設置	5,483 m ³ 以下	5,203 m ³	○	・節水を心掛け目標達成。 ・状況に応じて散水の削減に取り組む。
5. 製品の品質確保 (アスファルト合材の不良品率削減)(基準 1,730t) (5.0%削減) ・製品の目視確認 ・設備の維持管理	1,730 t以下	510 t	○	・目標達成。引き続き取り組む。 ・廃棄減少のため、予定確認と当日の予定数量の確認を徹底する。

○:目標達成、×:目標未達

7. 環境関連法規等などの取りまとめ表及び遵守評価結果

最新情報の確認:

作成/確認日: 2020年12月25日

更新日: 2023年6月30日

法令等の名称		適用される要求事項	施行時期等特記事項	適用される施設・項目	遵守状況	
					証拠	判定
大気	○大気汚染防止法	□大気汚染物質排出量調査	6月末	乾燥炉2基	届出書	○
		□第一指定化学物質の排出量及び移動量の特定施設(ばい煙)	6月末		届出書	○
		□特定施設(一般粉じん)			届出書	○
		□特定施設(特定粉じん)			届出書	○
水質	○フロン排出抑制法	□排出基準の遵守	6ヵ月に1回以上	破碎機、ベルトコンベア、堆積場ふるいばい煙ばい煙	測定結果	○
		□測定の記録と保管			測定結果	○
		□簡易点検			点検結果	○
騒音	○浄化槽法	□特定製品(業務用エアコン等)の整備・廃棄時のフロン回収・破壊		重機・業務用エアコン	点検結果	-
		□引取証明書による回収・破壊の工程の確認			点検結果	-
		□設置または変更時の届出			点検結果	-
振動	○騒音規制法	□保守点検		事務所棟	届出書	○
		□浄化槽管理者			点検結果	○
		□定期検査			届出書	○
廃棄物	○振动規制法	□特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を遵守	横浜市生活環境保全条例	アスファルトプラント 破碎機	届出書	○
		□特定施設(施行令別表第1)の届出			届出書	○
		□特定工場、特定施設を設置している事業所は規制基準を遵守	横浜市生活環境保全条例		アスファルトプラント 破碎機	届出書
土地	○家電リサイクル法	□特定施設(施行令別表第1)の届出		アスファルトプラント 破碎機	リサイクル券	-
		□リサイクル券での廃棄				
		□産業廃棄物処理業者は市町村長の許可が必要				
エネルギー	○廃棄物処理法	□保管基準の遵守(表示、衛生管理等) 表示:60cm角以上、種類、氏名・連絡先		産業廃棄物処分過程取得 鉄くず	届出書	○
		□産業廃棄物の中間処理後排出内容報告書	6月末まで		現況	○
		□産業廃棄物管理交付等状況報告書	6月末まで		現況	○
その他	○省エネ法	□産業廃棄物処理実績報告	6月末まで		報告書	○
		□産業廃棄物処分実績報告	6月末まで		報告書	○
		□産業廃棄物処分責任者	6月末まで		報告書	○
条例	○消防法	□専ら再生利用を目的の収集・運搬業者に委託		産業廃棄物処分過程取得 鉄くず	報告書	○
		□敷地面積9000m ² 以上			報告書	○
		□建築面積3000m ² 以上			報告書	○
条例	○横浜市生活環境保全条例	□第2種 重油換算 1500KL以上	7月末まで		実績	-
		□定期報告書の提出	7月末まで		報告書	○
		□中長期計画の提出	7月末まで		報告書	-
条例	○横浜市生活環境保全条例	□選任解任届出の提出	7月末まで		届出書	-
		□エネルギー管理員 資質向上講習	3年に1回		受講証	-
		□火災報知機の設置(工場500m ² 以上)				
条例	○横浜市生活環境保全条例	□屋内消火栓の設置(工場700m ² 以上)				
		□消防用設備等の点検と報告				
		□危険物取扱(指定数量以上)				
条例	○横浜市生活環境保全条例	□地球温暖化対策計画の報告	7月末まで		計画書	○
		□指定事業所の届出			届出書	○

環境関連法規等の遵守評価を行い、確認の結果、環境関連法規等に関する違反はありません。環境関連に関して関係当局より違反等の指摘はありません。苦情・訴訟もありません。

8、代表者による全体評価と見直しの結果

1、二酸化炭素削減

全般的に対象期間において目標を達成している。

今後も製造および出荷の予定把握を厳格化し、エネルギー消費の減少に努める。

灯油・軽油についてはアスファルト合材製造数量、廃材受け入れ量にも大きく起因するため、昨今の製造数量低減が寄与しているもの。当面は一般廃棄物削減、ガソリン削減、無駄な電力、水道使用への意識改革をさらに進めていく。

2、一般廃棄物排出量削減

特に紙ごみの可燃ごみへの混入が散見される。分別の意識不足が原因と思われる。このたび、改めて稼働の悪い旧式のシュレッダー機を交換したため、今後、可燃ごみと紙ごみの分別を心掛け、シュレッダーを活用し、再生資源化を目指す。また、一般廃棄物の排出数量の計画は資源ごみを考慮したうえで見直しを図りたい。

3、水使用量削減

場内の粉塵対策で散水は必要であり、適宜使用するが、必要以上の散水をしないよう注意喚起する。

全体

2022年度は、年度末にかけて仕事量の減少が大きく、昨年度に続き、アスファルト合材の販売は減少し、コンクリートガラなどの産業廃棄物の中間処理は微増するという状況が続いている。特に灯油はアスファルト合材製造数量の増減で使用量が大きく変わることから、今まで通り燃費、電力費の削減をするための行動にて今年度も取り組む。

電力需給の逼迫、燃料の高騰等、社会情勢も大きく変化しておりさらにもう一段の削減対策をハード、ソフト両面から今後検討していきたい。

なお、環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制については変更なく継続して取り組んでいく。

以上